

令和 7 年度 小学校視聴覚部会 研究報告書

(1) 郡 市 名 犬上郡

(2) 研究テーマ 「個別最適な学びのための ICT の活用」

(3) 研究組織

世 話 係 多賀町立多賀小学校 校長 高橋乃生子  
 理 事 多賀町立大滝小学校 教諭 仁井理沙  
 研 究 員 甲良町立甲良西小学校 教諭 岡野慎也

(4) 年間の研究（事業）報告

5月2日（金） 教科主任会

5月7日（水） ～各校での実践

(5) 取り組み<甲良町立甲良西小学校での取り組み>

本学級の児童は、第3学年の学習（特に「こまを楽しむ」）において、自分の好きな物やおすすめしたいところを紹介できるようになってきていた。しかし、相手に自分の考えを説明するための理由付けや自分の考えを明確にすることが、まだ十分にできていない。そこで、本単元では筆者の自分の考えを明確に書き、アップとルーズで捉えることのよさ、それぞれの場合に合わせたよさを説明する文章の書き方に注目し筆者の考えを引用しながら書けるように指導をする。

また、書くことに抵抗がある児童が多く、なかなか書き始めることができずに手が止まってしまう。そのために、様々な教科でタブレットを用いて調べ学習もおこなっているため、今回文章を書く時間では、下書きにタブレットを用いることで少しでも書いたり消しゴムで消したりする抵抗を減らすことができると考える。

本時の目標

自分の好きなことについて、文章構成や例の挙げ方を工夫して書こうとしている。

本時の展開

過 程	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の姿	◎学習支援 ☆評価点
導 入	1. 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。		
	<b>自分の好きなことを相手にわかりやすく伝えよう！</b>		

<p>展 開</p>	<p>2. ①「アップとルーズで伝える」で学習したことを振り返る。</p> <p>②自分の好きなことを下書きに書き、清書する。</p> <p>③清書したものを相手に読んでもらう。</p> <p>④清書したものを読み合ってより工夫できるところを見つける。</p>	<p>○筆者が自分の考えを相手に伝えるためにどんな工夫をしてみましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アップとルーズの説明をしていた。</li> <li>・いいところを詳しく書いていた。</li> <li>・詳しく説明していた。</li> </ul> <p>●自分の考えを相手に伝えるためにはどんな工夫をしたらいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を書く。</li> <li>・自分の考えを2回書く。</li> <li>・はじめ・中・終わりに分けて書く。</li> </ul> <p>○相手の文章の書き方でくふうしていたところはどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例が書いてあった。</li> <li>・自分の考えがはっきり書いてあった。</li> <li>・二つ例があってわかりやすかった。</li> </ul>	<p>◎アップとルーズの挿絵を利用して、具体例があることで筆者の考えがより伝わることを確認する。</p> <p>◎書き始める前に、どうすれば自分の考えが相手に伝えるための書き方の例を紹介する。</p> <p>◎下書きを書く際に、タブレット、紙どちらで書くか選べるようにする。</p> <p>☆自分の好きなことについて、文章構成や例の挙げ方を工夫して書くようとしている。【記述】(思・判・表)</p> <p>◎交流を通して相手の書き方を見て、より自分の文章を推敲し、よくしていく。</p>
<p>ま と め</p>	<p>3. 今日の振り返りをする。</p>	<p>○自分が今日文章を書く上で工夫したことを書こう。</p>	

(6) 成果と今後の課題

<成果>

今回の授業では、はじめ・中・終わりで具体的な例を用いて友だちに紹介する文章を書くといった内容であった。その中で、文章の下書きをタブレットの学習支援ソフト (tomolinks) を使うか、紙に書くかを子どもたちに選んでもらうようにした。8割ほどがタブレットを選

択し、残りの2割が紙を選択して下書きをしていた。普段、紙で下書きをする際、なかなか書けない子どもたちが、タブレットで書くことでスムーズに書くことができていた。文章を書く速さも早くなり、誤字や脱字も少なくなったりしていることが分かった。また、まだ学習していない漢字を使って書いている児童も多く見られた。清書の際には、しっかりとその字を書いている姿も見ることができた。

タブレットではなく紙を選んだ児童は、自分で考えて選んでいたのもあり、熱心に取り組むことができていた。

本授業の前に、文章の下書きをタブレットで書くメリット・デメリット、紙で書くメリット・デメリットの話をしていたこともあり、自分に合わせた学習方法を取ることができている児童が多かったと感じた。

#### <今後の課題>

個別最適な学びのために、今回はタブレットを用いて下書きを行った。しかし、漢字の変換をしたものが文章の意味とあっていないことに気付かなかったり、文章の書き方(段落を変えるときに1マス空ける等)を気にせず書いたりしてしまっていた。そのために、しっかりと教師側で書いたものを確認する必要がある。ただ、学習支援ソフトのおかげで一挙に子どもたちの文章を見て添削していけるのでそこはかなり時間の短縮につながる。また、紙で書く方が早いにもかかわらず、タブレットを使いたいがために選択してしまっている子どももいた。そこで時間がかかることが分かり次回からは紙にする方がよいのではないかと声掛けをする必要がある。

しかし、全体として子どもたちがしっかりとタイピングを練習していたためスムーズにできていたが、学年によってばらつきもあるため、個別最適な学びのためにそれぞれの発達段階やタイピング能力に合わせた授業を行う必要がある。

